

## ●利用者12● 60代 男性【胃ろうの管理・介護者支援】

✓家族による胃ろう管理が困難になり、同法人の小規模多機能型居宅介護から移行

✓家族の介護力を把握しながら、柔軟に通いや訪問、泊まりで支援を実施

### 1. 利用者の基本情報

世帯構成	妻、次女				
介護力	主たる介護者は妻・次女。時間によって介護できる人がいる。				
要介護度	要介護4				
障害高齢者の日常生活自立度	B2	認知症高齢者の日常生活自立度		IV	
ADL	移動	食事	排泄	入浴	着替え
	一部介助	一部介助	一部介助	一部介助	一部介助
主な傷病	脳梗塞→左内頸動脈狭窄→内膜剥離→意識障害→左麻痺				
必要な医療処置	・胃ろう ・リハビリテーション				
ターミナル期	ターミナル期ではない	病状の安定性・悪化の可能性		不安定・悪化の可能性なし	
特記事項	・妻は進行性の難病で、認知機能・ADLに著しい低下が見られる。 ・本人は左麻痺、言語障害等の疾患を抱えており、妻は難病を抱えながらも見守りや声かけ（アー、ウーの声のトーンで表現）を行っている。 ・同居の次女は就労しており、介護を全面的に担うには不安がある。				

### 2. 利用開始の経緯

<家族が胃ろうに対応できなくなり、同法人の小規模多機能型居宅介護から移動>

- ・サービス利用開始前は、同法人の小規模多機能型居宅介護を利用しており、別居の長女が昼の胃ろう注入をしていた。長女には小さな子どもがおり、胃ろうの注入ができない場合は、他法人の訪問看護サービスを利用していた。区分支給限度基準額を越え、介護保険以外の自費で支払う月があったため、長女は子どもの幼稚園入園を機に、働くこととなった。
- ・昼の胃ろうの担当が不在となってしまったことから、当事業所を利用することとなった。

### 3. 利用開始直後のサービス提供状況

<家族と事業所で胃ろう対応のスケジュールを検討>

- ・胃ろうの担当を、朝は家族、昼間は、訪問や通いで看護職員や介護職員が妻を支援するスケジュールを組んだ。
- ・昼と夕の胃ろうを難病の妻も対応していたが、手順等を間違えてしまうことがあるため、自宅で妻が胃ろうを行う際に、介護職員が訪問し、妻の手順の見守りを行った。また、計画的に看

護職員も訪問し、本人の状況と妻の手順の確認を行うようにした。家族が不在で胃ろうに対応できないときには、臨機応変に泊まりを利用するようにした。

- ・通いでは、看護職員が胃ろうに対応するほか、リハビリテーションも行っている。介護職員は、入浴、送迎、レクリエーションを担当した。

#### ※利用開始から最初の2週間のサービス提供状況

(胃ろう対応を中心とした役割分担とサービス提供状況)

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目
通い	○		○		○			○		○		○		
胃ろう担当	昼		昼		昼			昼		昼		昼		
訪問(介護)	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
胃ろう担当	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕
訪問(看護)		☆		☆					☆		☆			
胃ろう担当		昼		昼					昼		昼			
家族(胃ろう担当)	朝	朝	朝	朝	朝	朝・昼	朝・昼	朝	朝	朝	朝	朝	朝・昼	朝・昼

## 4. その後のサービス提供状況

### <家族と事業所で本人を支える体制を継続>

- ・サービス利用開始時から、サービスの内容に大きな変更はない。
- ・妻の難病は進行しているが、訪問で見守りながら、胃ろうを行うことができている。
- ・片麻痺があるものの、筋低下はほとんど見られず、ADLも維持することができている。

#### ※直近の2週間のサービス提供状況

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目
通い	○		○		○			○		○		○		
胃ろう担当	昼		昼		昼			昼		昼		昼		
訪問(介護)	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
胃ろう担当	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕
訪問(看護)		☆		☆					☆		☆			
胃ろう担当		昼		昼					昼		昼			
家族(胃ろう担当)	朝	朝	朝	朝	朝	朝・昼	朝・昼	朝	朝	朝	朝	朝	朝・昼	朝・昼

### ○サービス利用の効果

- ・妻にとっても不安時や混乱時にいつでも相談できる場があることで、精神的な安定につながっている。妻の不安が強い際には緊急訪問を行っている。両親を支えている次女も就労しながら無理なく介護を行うことができている。
- ・看護・介護の訪問が複数回利用しても料金が一定であることは、金銭的に安心して、毎日の胃ろう対応等、必要な支援を受けることができる。
- ・通いも訪問も同じ職員が対応するため、早くに馴染むことができ、当初、緊張した面持ちだった

たが、すぐに笑顔が多く見られるようになった。

- ・家族の緊急時には、馴染みの場所で、胃ろう対応の心配もなく泊まりの利用ができる。